



矢島 渚男 選

地震津波避難絶叫に能登年初め

千葉市 高久

【評】元旦の地震は驚愕を与えた。私はサッカー放送の余韻の中、炬燵で懸命な女性アナウンサーの声を聞いた。あの声は多くの命を救ったに違いない。名詞の多い句も迫力。戦場と紛ふ被災地震急

【評】ウクライナやガザの戦跡と地震被害地の映像が似ていることに驚く。季語のあしらいが巧みである。三歳は袋が大事お年玉

我孫子市 森住 昌弘

【評】三歳児はお力ネより綺麗な髪。斗袋が大切そう。こんな純真な幼な子の句を読み、災害地の報道を見た後に力ネに群がる政治家たちのニュースを見ると、怒りが湧く。驚愕する正直さうな人とか

大阪府 今井 文雄

倒壊の家に降る雪静かなり
近江八幡市 大川 勇

炊き出しをするも受けるも息白し
宝塚市 武田 優子

大寒の山見る拳固くして
横浜市 奥沢 和子

初夢に妻の出でくる妻の留守
島根県 重親 映人

プーチンの仮面のやうな初笑顔
神戸市 吉野 勝子

冬灯しもぐもぐ長き老の膳
逗子市 鈴木喜久代

高野ムツオ 選

能登伏しし街並みなほも雪

松山市 早坂 哲夫

【評】崩れた能登だが、大地震の被災がその地の歴史や文化にまで及ぶことを、容赦ない雪が自然の冷酷さを、それぞれ伝える。俳句は観察である。繭玉や人影去って静まれる

【評】繭玉が揺れるのは、見上げる人を喜ばせるためだったのか。繭玉に神様が乗り移っているのかもしれない。擬人法が功を奏している。選受けしゆたかな月日冬日和

三条市 星野 愛

【評】前選者宇多喜代子氏への感謝に溢れる。選者と投稿者との俳句を通じた交流の日が冬日和のように広がる。心にして選に当たりたい。正義とは如何なるものか冬夕焼

八王子市 梅沢 春雄

避難所に支えあう声冬の星
大田市 鈴木 仁

初日記吾の事よりも能登地震
園分寺市 加藤 武夫

伍珈琲ピキツと鳴って寒に入る
小野市 大野多恵子

点滴の始まる床の淑気かな
志木市 谷村 康志

会釈して白息のみを交はしけり
雲南市 熱田 俊月

寒椿ニヤリ笑ってボタリ落ち
東京都 藤井 好

正木ゆう子 選

冬はつとめて明けの明星消えるまで

さいたま市 関根 博

【評】清少納言の「冬は早朝が良い」という言に、若い頃は「寒いのに」と思ったものだが、今は深く肯く。冬の早朝ほど清々しく美しいものはない。金星が太陽の光に消えるまで。雑煮焼しまふや能登を案じつつ

【評】お正月に使う特別な漆器を仕舞いつつ、同じ気持だった人は多いだろう。再び制作される日が来るのを、出来る応援をしながら待つ。寒風へ夫なき後の教習所

千葉市 宇野嘉世子

【評】運転は任せておけば大丈夫。そんな頼りになる人が居なくなつて、教習所に通う。寒風の中、一歩踏み出した作者であろうか。安寧な年を初日に祈れども

神奈川県 横塚 昌平

真つ青に雲寄せつけぬ初御空
佐野市 桑原 博

いにしへは瀟湖なりけり初日影
秋田市 進藤 利文

恋歌は恋するよつに読む歌留多
町田市 鯉淵 洋子

この席に去年妻在しき年迎ふ
東京都 市川 廉

竹馬の至難の業に横歩き
白井市 昆舎利道弘

はいはいと長老を立てどんどの火
東京都 川瀬 佳穂

小澤 實 選

青竹のばんばんばんとどんどかな

日立市 菊池 三夫

【評】どんと焼きで、青竹が燃やされ割れる音を「ばんばんばん」と聞き取っている。途中で音が変わるのがよかった。「ばんばんばん」だったら、一席には置かなかった。プロレスごつこの兄妹男児初泣きす

【評】新年から兄と妹がプロレスごつこをしている。妹のかけた技が決まって、兄が泣き出してしまった。男児の言い換えで、年齢が想像できる。軽トラの荷台にトイレ川溜るる

京田辺市 加藤 草児

【評】このトイレは、河川整備にあたる人が使うのだろうか。下五で大きく転換して、洒れた川のしらじらとした河原が見えてくる。寒垢離に一枚岩を踏みゆけり

東京都 天地わたる

雪下ろす亭主に惚るる妻であれ
守谷市 久保田洋二

春待つや餃子五十個包む指
千葉市 福岡 初代

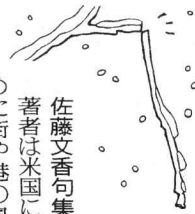
卓上に辞書とノートとマフラート
尾張旭市 小野 薫

麦を踏み古老のラジオよりロック
高山市 直井 照男

鍋焼きの蓋の孔より蒸気噴き
大津市 星野 暁

風強く毛糸の帽子被り行く
藤原川内市 末永 芳子

枝しおり 折



佐藤文香句集「こゑは消えるのに」著者は米国に1年間滞在した。眺めた街や港の風景が立ち上がる。△アイタホの雲ほほ多みを返すなり▽ (港の人、2750円) 井上泰至著「俳句のマナー、俳句のスタイル」雑誌「俳壇」の連載をまとめた一冊。「や」「かな」の効果的な使いどころや、よい字余りの例などを解説する。

(本阿弥書店、1870円) 工藤吉生歌集「沼の夢」短歌研究新人賞受賞者による第2歌集。自虐のユーモアと、垣間見える寂しさが胸を打つ。△ありのままのオレはどついう奴なのか笑うと裂けるくちびるの皮▽ (左右社、1980円) 三井修歌集「天使領」「塔短歌会」一選者の第11歌集。新型コロナ、台風被害などの社会情勢を冷静に見つめた。△天使領ほどの真青のシート置く人の気配のせぬ家の屋根▽ (KADOKAWA、3080円)



題字デザイン・イラスト 福田美蘭